

チャレンジ！野菜づくり 上手に育てておいしく食べようズッキーニ



ズッキーニはカボチャの仲間。ペポ種のひとつ。節間が短縮されつるとして伸びないので、「つるなしカボチャ」とも呼ばれます。「サマースカッシュ」の別名もあります。

日本へは50年ほど前に導入されましたが、当時は食習慣になじまず、利用は伸びませんでした。さまざまな洋風料理に向くことが分かり、近年人気が高まってきました。

主力はキュウリのように長形で緑色でしたが、近頃は図1のように黄色や球形など、色、形の異なる新品種も種々出回るようになり、需要を大きく伸ばしてきました。

種のまきどきは4月中旬～5月上旬です。カボチャに準じて3～3.5号のポリ鉢に2～3粒まきとし、育つにつれて1本立てにし、本葉4～5枚に育てて畑に植え出します。

茎は短縮され、葉は大型で株元付近が込み合った状態に育つので、基肥の窒素成分は控えめに施し、株間60cm、畝間180cmと広めに植えましょう。また、葉が込み合いがちなので多湿を嫌います。畑は排水の良い所を選び、畝を高め

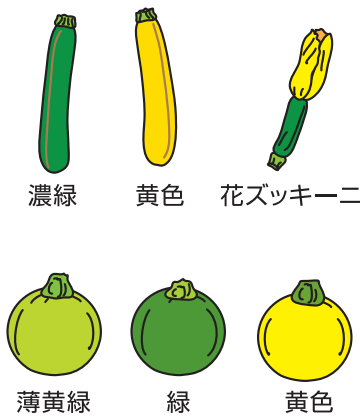
に作り、ポリマルチをすることが大切です。

葉が大きく、葉柄は太くて中空なので、風に振り回されたり反転しやすく、その傷口から病原菌が入る場合が多いので、図2のように短い支柱を株元に、茎を挟むよう交差させて立て、ひもで結んで固定します。

生育が旺盛になり葉が込み合うようになつてきたら、株元付近の葉を1～2枚ずつ、果実も適宜間引き、健全に育てます。肥大する果実が多くなつてきたら、半月に1回ぐらい化成肥料と油かすを追肥します。

果実は短縮した茎の各節に付き、開花後の肥大は早いので、長形果種は長さ20cmほどに、球形果種は径6～8cmぐらいになつたら遅れず

(図1)



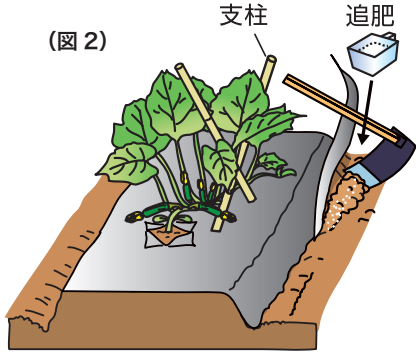
に収穫しましょう。

ハウス栽培では早い時期には雄花を探して人工授粉することが必要ですが、露地栽培では昆虫が活動するので、放任しておいてもよく実止まりします。降雨が続いたりして多湿になると、花弁がしおれて果実に付き、腐ることがあるので、花弁を早めに取り除きます。

代表的な食べ方はトマトやナスなどと一緒に煮込むラタトゥイユ。油で一度炒めてから煮込むとカロテンの吸収も良くなります。

簡単なのは輪切りにしてバターで炒めてチーズの付け合わせに。ゆでて塩とレモン汁を振ってサラダに。縦に薄く切つて帯状にし、ゆでてサーモンやトマトなど彩りの良い材料を巻きオードブルに。その他グラタン、唐揚げ、ガーリック炒めに。さらには開花中の花弁を花ズッキーニにと、用途は限りなく広がります。

(図2)



基肥は植え付け半月前に畝全体に耕し込む。追肥は生育盛りのときフィルムを上げて施す

肥料・農薬のご紹介

家庭菜園には

ダントツ粒剤 (1kg)



春夏野菜で悩むのは、やっばり害虫の被害！

そこで、オススメするのが「ダントツ粒剤」。水稲や園芸作物にも登録があり、幅広い作物にご使用いただける殺虫剤です。

野菜の定番トマト、ナス、キュウリ、キャベツ、ブロッコリー等に登録があり、育苗期後半～定植時に使用できます。

植え付け後、気付けば大量発生しているアブラムシ類、コナジラミ類に対しては、株当たり1gの処理がオススメです。

「いちいち1g量るのが面倒！」「農薬を直接さわるのがイヤー！」という時に役立つ「ひと振りちゃん」(ダントツ粒剤専用散粒器)をプレゼント！家庭菜園の味方になる「ダントツ粒剤」をぜひ、お試しください。

※ご使用の際は、ラベルの適用内容等をご確認ください。